中学校保健体育科

学習評価と評価規準例

保健分野

もくじ

学習評価の基本的な考え方，学習評価の主な改善点，

内容のまとまりごとの評価規準の考え方　………………………　１

教科の目標と評価の観点及びその趣旨　………………………………　２

各学年の目標と学年・分野別の教科の観点及びその趣旨　…………　２

（１）健康な生活と疾病の予防　　第１・２・３学年　……………　３

（２）心身の機能の発達と心の健康　　第１学年　…………………　８

（３）傷害の防止　　第２学年　………………………………………　11

（４）健康と環境　　第３学年　………………………………………　13

2020年７月

株式会社学研教育みらい

学習評価の基本的な考え方

◆学習評価について指摘されている課題

・学期末や学年末などの事後での評価に終始してしまうことが多く，評価の結果が児童生徒の具体的な学習改善につながっていない。

・現行の「関心・意欲・態度」の観点について，挙手の回数や毎時間ノートをとっているかなど，性格や行動面の傾向が一時的に表出された場面を捉える評価であるような誤解が払拭しきれていない。

・教師によって評価の方針が異なり，学習改善につなげにくい。

・教師が評価のための「記録」に労力を割かれて，指導に注力できない。

・相当な労力をかけて記述した指導要録が，次の学年や学校段階において十分に活用されていない。

◆学習評価の改善の基本的な方向性

　次の基本的な考え方に立って，学習評価を真に意味のあるものとすることが重要であること。

【1】児童生徒の学習改善につながるものにしていくこと。

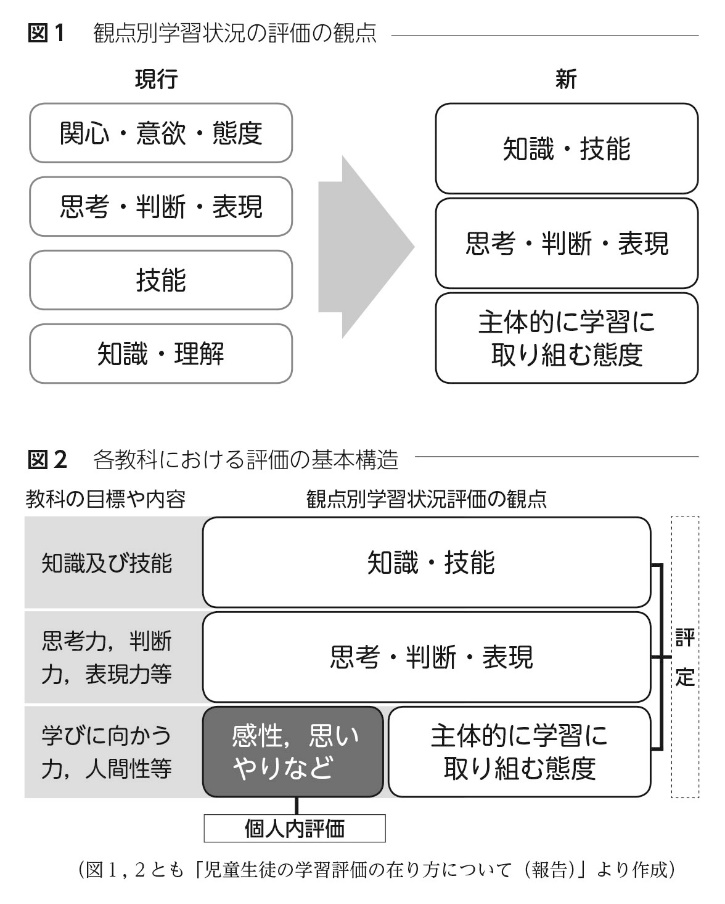
【2】教師の指導改善につながるものにしていくこと。

【3】これまで慣行として行われてきたことでも，必要性・妥当性が認められないものは見直していくこと。

（「小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知）」より抜粋）

※以下，「小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知）」を，改善等通知とする。）

**学習評価の主な改善点**

　学習指導要領（平成29年告示）において，各教科等の目標及び内容を「知識及び技能」，「思考力，判断力，表現力等」，「学びに向かう力，人間性等」の資質・能力の三つの柱で再整理したことを踏まえ，これらの資質・能力に関わる

　・「知識・技能」

　・「思考・判断・表現」

　・「主体的に学習に取り組む態度」

の３観点に整理して示されている。（図１）

◎「学びに向かう力，人間性等」について

・「主体的に学習に取り組む態度」として観点別学習状況の評価を通じて見取ることができる部分

・観点別学習状況の評価にはなじまず，個人内評価等を通じて見取る部分（感性，思いやりなど）

があることに留意する必要があることが明確にされている。（図２）

また，知識及び技能を獲得したり，思考力，判断力，表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取り組みの中で，自らの学習を調整しようとしているかどうかを含めて評価することとされている。

**内容のまとまりごとの評価規準の考え方**

◆学習指導要領の「第２　各学年の目標及び内容　２　内容」と評価規準の関係

・学習指導要領の改訂において，「第２　各学年の目標及び内容　２　内容」は，資質・能力の三つの柱に基づいて構造化が行われており，この記載がそのまま学習指導の目標となりうるものと考えることができる。

・児童生徒が資質・能力を身に付けた状態を評価すると考えると，「２　内容」に書かれた「〜すること」を「〜している」等に変換することで，内容のまとまりごとの評価規準として示すことができる。

**次に，「教科の目標と評価の観点及びその趣旨」「各学年の目標と学年・分野別の評価の観点及びその趣旨」「内容のまとまりごとの評価規準例」「単元の評価規準例」を示している。**

**中学校保健体育科**

**教科の目標と評価の観点及びその趣旨**

**◆中学校学習指導要領　第２章　第７節　保健体育　第１　目標**

体育や保健の見方・考え方を働かせ，課題を発見し，合理的な解決に向けた学習過程を通して，心と体を一体として捉え，生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| （１） | （２） | （３） |
| 各種の運動の特性に応じた技能等及び個人生活における健康・安全について理解するとともに，基本的な技能を身に付けるようにする。 | 運動や健康についての自他の課題を発見し，合理的な解決に向けて思考し判断するとともに，他者に伝える力を養う。 | 生涯にわたって運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し，明るく豊かな生活を営む態度を養う。 |

（中学校学習指導要領p.115）

**◆改善等通知　別紙４　体育・保健体育（１）評価の観点及びその趣旨　〈中学校　保健体育〉**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 運動の合理的な実践に関する具体的な事項や生涯にわたって運動を豊かに実践するための理論について理解しているとともに，運動の特性に応じた基本的な技能を身に付けている。また，個人生活における健康・安全について科学的に理解しているとともに，基本的な技能を身に付けている。 | 自己や仲間の課題を発見し，合理的な解決に向けて，課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに，それらを他者に伝えている。また，個人生活における健康に関する課題を発見し，その解決を目指して科学的に思考し判断しているとともに，それらを他者に伝えている。 | 運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう，運動の合理的な実践に自主的に取り組もうとしている。また，健康を大切にし，自他の健康の保持増進や回復についての学習に自主的に取り組もうとしている。 |

（小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知）　別紙４ p.19）

**各学年の目標と学年・分野別の評価の観点及びその趣旨**

**◆中学校学習指導要領　第２章　第７節　保健体育「第２　各学年の目標及び内容」**

**〔保健分野〕　１　目標**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| （１） | （２） | （３） |
| 個人生活における健康・安全について理解するとともに，基本的な技能を身に付けるようにする。 | 健康についての自他の課題を発見し，よりよい解決に向けて思考し判断するとともに，他者に伝える力を養う。 | 生涯を通じて心身の健康の保持増進を目指し，明るく豊かな生活を営む態度を養う。 |

（中学校学習指導要領p.126）

**◆改善等通知　別紙４　体育・保健体育（２）学年・分野別の評価の観点の趣旨**

**〈中学校　保健体育〉保健分野**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 健康な生活と疾病の予防，心身の機能の発達と心の健康，傷害の防止，健康と環境について，個人生活を中心として科学的に理解しているとともに，基本的な技能を身に付けている。 | 健康な生活と疾病の予防，心身の機能の発達と心の健康，傷害の防止，健康と環境について，個人生活における健康に関する課題を発見し，その解決を目指して科学的に思考し判断しているとともに，それらを他者に伝えている。 | 健康な生活と疾病の予防，心身の機能の発達と心の健康，傷害の防止，健康と環境について，自他の健康の保持増進や回復についての学習に自主的に取り組もうとしている。 |

（小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知）　別紙４ p.21）

**（１）健康な生活と疾病の予防　　　第１・２・３学年**

**◆学習指導要領　２　内容**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 健康な生活と疾病の予防について，課題を発見し，その解決を目指した活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。 | | |
| 知識及び技能 | 思考力，判断力，表現力等 | 学びに向かう力，人間性等 |
| ア　健康な生活と疾病の予防について理解を深めること。  （ア）健康は，主体と環境の相互作用の下に成り立っていること。また，疾病は，主体の要因と環境の要因が関わり合って発生すること。  （イ）健康の保持増進には，年齢，生活環境等に応じた運動，食事，休養及び睡眠の調和のとれた生活を続ける必要があること。  （ウ）生活習慣病などは，運動不足，食事の量や質の偏り，休養や睡眠の不足などの生活習慣の乱れが主な要因となって起こること。また，生活習慣病の多くは，適切な運動，食事，休養及び睡眠の調和のとれた生活を実践することによって予防できること。  （エ）喫煙，飲酒，薬物乱用などの行為は，心身に様々な影響を与え，健康を損なう原因となること。また，これらの行為には，個人の心理状態や人間関係，社会環境が影響することから，それぞれの要因に適切に対処する必要があること。  （オ）感染症は，病原体が主な要因となって発生すること。また，感染症の多くは，発生源をなくすこと，感染経路を遮断すること，主体の抵抗力を高めることによって予防できること。  （カ）健康の保持増進や疾病の予防のためには，個人や社会の取組が重要であり，保健・医療機関を有効に利用することが必要であること。また，医薬品は，正しく使用すること。 | イ　健康な生活と疾病の予防について，課題を発見し，その解決に向けて思考し判断するとともに，それらを表現すること。 | ※内容には，学びに向かう力，人間性等について示されていないことから，保健分野の目標(3)を参考にする。 |

**◆内容のまとまりごとの評価規準例**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| ・健康は，主体と環境の相互作用の下に成り立っていること。また，疾病は，主体の要因と環境の要因が関わり合って発生することを理解している。  ・健康の保持増進には，年齢，生活環境等に応じた運動，食事，休養及び睡眠の調和のとれた生活を続ける必要があることを理解している。  ・生活習慣病などは，運動不足，食事の量や質の偏り，休養や睡眠の不足などの生活習慣の乱れが主な要因となって起こること。また，生活習慣病の多くは，適切な運動，食事，休養及び睡眠の調和のとれた生活を実践することによって予防できることを理解している。  ・喫煙，飲酒，薬物乱用などの行為は，心身に様々な影響を与え，健康を損なう原因となること。また，これらの行為には，個人の心理状態や人間関係，社会環境が影響することから，それぞれの要因に適切に対処する必要があることを理解している。  ・感染症は，病原体が主な要因となって発生すること。また，感染症の多くは，発生源をなくすこと，感染経路を遮断すること，主体の抵抗力を高めることによって予防できることを理解している。  ・健康の保持増進や疾病の予防のためには，個人や社会の取組が重要であり，保健・医療機関を有効に利用することが必要であること。また，医薬品は，正しく使用することを理解している。 | ・健康な生活と疾病の予防について，課題を発見し，その解決に向けて思考し判断しているとともに，それらを表現している。 | ・健康な生活と疾病の予防についての学習に自主的に取り組もうとしている。  ※必要に応じて学年・分野別の評価の観点の趣旨（「主体的に学習に取り組む態度」に関わる部分）等を用いて作成する。 |

**◆単元の評価規準例**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| ①健康は，主体と環境を良好な状態に保つことにより成り立っていること，また，健康が阻害された状態の一つが疾病であることについて，理解したことを言ったり，書いたりしている。また，疾病は，主体の要因と環境の要因とが相互に関わりながら発生することについて，理解したことを言ったり，書いたりしている。  ②運動には，身体の各器官の機能を刺激し，その発達を促すとともに，気分転換が図られるなど，精神的にもよい効果があることについて，理解したことを言ったり，書いたりしている。また，健康を保持増進するためには，年齢や生活環境等に応じて運動を続けることが必要であることについて，理解したことを言ったり，書いたりしている。  ③食事には，健康な身体をつくるとともに，運動などによって消費されたエネルギーを補給する役割があることについて，理解したことを言ったり，書いたりしている。また，健康を保持増進するためには，毎日適切な時間に食事をすること，年齢や運動量等に応じて栄養素のバランスや食事の量などに配慮することが必要であることについて，理解したことを言ったり，書いたりしている。  ④休養及び睡眠は，心身の疲労を回復するために必要であること，健康を保持増進するためには，年齢や生活環境等に応じて休養及び睡眠をとる必要があることについて，理解したことを言ったり，書いたりしている。  ⑤心身の健康は生活習慣と深く関わっており，健康を保持増進するためには，年齢，生活環境等に応じた適切な運動，食事，休養及び睡眠の調和のとれた生活を続けることが必要であることについて，理解したことを言ったり，書いたりしている。  ⑥生活習慣病は，日常の生活習慣が要因となって起こる疾病であり，適切な対策を講ずることにより予防できることについて，理解したことを言ったり，書いたりしている。その際，運動不足，食事の量や質の偏り，休養や睡眠の不足，喫煙，過度の飲酒などの不適切な生活行動を若い年代から続けることによって，やせや肥満などを引き起こしたり，また，心臓や脳などの血管で動脈硬化が引き起こされたりすることや，歯肉に炎症等が起きたり歯を支える組織が損傷したりすることなど，様々な生活習慣病のリスクが高まることについて，理解したことを言ったり，書いたりしている。生活習慣病を予防するには，適度な運動を定期的に行うこと，毎日の食事における量や頻度，栄養素のバランスを整えること，喫煙や過度の飲酒をしないこと，口腔の衛生を保つことなどの生活習慣を身に付けることが有効であることについて，理解したことを言ったり，書いたりしている。  ⑦がんは，異常な細胞であるがん細胞が増殖する疾病であり，その要因には不適切な生活習慣をはじめ様々なものがあること，また，がんの予防には，生活習慣病の予防と同様に，適切な生活習慣を身に付けることなどが有効であることについて，理解したことを言ったり，書いたりしている。  ⑧喫煙については，たばこの煙の中にはニコチン，タール及び一酸化炭素などの有害物質が含まれていること，それらの作用により，毛細血管の収縮，心臓への負担，運動能力の低下など様々な急性影響が現れること，また，常習的な喫煙により，がんや心臓病など様々な疾病を起こしやすくなることについて，理解したことを言ったり，書いたりしている。特に，未成年者の喫煙については，身体に大きな影響を及ぼし，ニコチンの作用などにより依存症になりやすいことについて，理解したことを言ったり，書いたりしている。  ⑨飲酒については，酒の主成分のエチルアルコールが中枢神経の働きを低下させ，思考力，自制力，運動機能を低下させたり，事故などを起こしたりすること，急激に大量の飲酒をすると急性中毒を起こし意識障害や死に至ることもあることについて，理解したことを言ったり，書いたりしている。また，常習的な飲酒により，肝臓病や脳の疾病など様々な疾病を起こしやすくなることについて，理解したことを言ったり，書いたりしている。特に，未成年者の飲酒については，身体に大きな影響を及ぼし，エチルアルコールの作用などにより依存症になりやすいことについて，理解したことを言ったり，書いたりしている。  ⑩薬物乱用については，覚醒剤や大麻の摂取によって幻覚を伴った激しい急性の錯乱状態や急死などを引き起こすこと，薬物の連用により依存症状が現れ，中断すると精神や身体に苦痛を感じるようになるなど様々な障害が起きることについて，理解したことを言ったり，書いたりしている。また，薬物乱用は，個人の心身の健全な発育や人格の形成を阻害するだけでなく，社会への適応能力や責任感の発達を妨げるため，暴力，非行，犯罪など家庭・学校・地域社会にも深刻な影響を及ぼすこともあることについて，理解したことを言ったり，書いたりしている。  ⑪喫煙，飲酒，薬物乱用などの行為は，好奇心，なげやりな気持ち，過度のストレスなどの心理状態，断りにくい人間関係，宣伝・広告や入手し易さなどの社会環境によって助長されること，それらに適切に対処する必要があることについて，理解したことを言ったり，書いたりしている。  ⑫感染症は，病原体が環境を通じて主体へ感染することで起こる疾病であり，適切な対策を講ずることにより感染のリスクを軽減することができることについて，理解したことを言ったり，書いたりしている。例えば，結核，コレラ，ノロウイルスによる感染性胃腸炎，麻疹，風疹などを適宜取り上げ，これらについて，理解したことを言ったり，書いたりしている。病原体には，細菌やウイルスなどの微生物があるが，温度，湿度などの自然環境，住居，人口密度，交通などの社会環境，また，主体の抵抗力や栄養状態などの条件が相互に複雑に関係する中で，病原体が身体に侵入し，感染症が発病することについて，理解したことを言ったり，書いたりしている。  ⑬感染症を予防するには，消毒や殺菌等により発生源をなくすこと，周囲の環境を衛生的に保つことにより感染経路を遮断すること，栄養状態を良好にしたり，予防接種の実施により免疫を付けたりするなど身体の抵抗力を高めることが有効であることについて，理解したことを言ったり，書いたりしている。また，感染症にかかった場合は，疾病から回復することはもちろん，周囲に感染を広げないためにも，できるだけ早く適切な治療を受けることが重要であることについて，理解したことを言ったり，書いたりしている。  ⑭エイズ及び性感染症の増加傾向と青少年の感染が社会問題になっていることから，それらの疾病概念や感染経路，また，感染のリスクを軽減する効果的な予防方法を身に付ける必要があることについて，理解したことを言ったり，書いたりしている。  ⑮健康の保持増進や疾病の予防には，健康的な生活行動など個人が行う取組とともに，社会の取組として，保健所，保健センターなどが行う住民の健康診断や健康相談などの健康増進や疾病予防についての地域の保健活動が有効であることについて，理解したことを言ったり，書いたりしている。  ⑯心身の状態が不調である場合は，できるだけ早く医療機関で受診することが重要であることについて，理解したことを言ったり，書いたりしている。  ⑰医薬品には，主作用と副作用があること及び，使用回数，使用時間，使用量などの使用法があり，正しく使用する必要があることについて，理解したことを言ったり，書いたりしている。 | ①健康な生活と疾病の予防における事柄や情報などについて，保健に関わる原則や概念を基に整理したり，個人生活と関連付けたりして，自他の課題を発見している。  ②健康の成り立ちと疾病の発生要因や，生活習慣と健康について，習得した知識を自他の生活に適用したり，課題解決に役立てたりして，健康の保持増進をする方法を見いだしている。  ③生活習慣病及びがんの予防や，喫煙，飲酒，薬物乱用と健康について，習得した知識を自他の生活と比較したり，活用したりして，疾病等にかかるリスクを軽減し健康の保持増進をする方法を選択している。  ④感染症の予防や健康を守る社会の取組について，習得した知識を自他の生活に適用したり，応用したりして，疾病等にかかるリスクを軽減し健康を保持増進する方法を選択している。  ⑤健康な生活と疾病の予防について，課題の解決方法とそれを選択した理由などを，他者と話し合ったり，ノートなどに記述したりして，筋道を立てて伝え合っている。 | ①健康な生活と疾病の予防について，課題の解決に向けた学習に自主的に取り組もうとしている。 |

**（２）心身の機能の発達と心の健康　　　第1学年**

**◆学習指導要領　２　内容**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 心身の機能の発達と心の健康について，課題を発見し，その解決を目指した活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。 | | |
| 知識及び技能 | 思考力，判断力，表現力等 | 学びに向かう力，人間性等 |
| ア　心身の機能の発達と心の健康について理解を深めるとともに，ストレスへの対処をすること。  （ア）身体には，多くの器官が発育し，それに伴い，様々な機能が発達する時期があること。また，発育・発達の時期やその程度には，個人差があること。  （イ）思春期には，内分泌の働きによって生殖に関わる機能が成熟すること。また，成熟に伴う変化に対応した適切な行動が必要となること。  （ウ）知的機能，情意機能，社会性などの精神機能は，生活経験などの影響を受けて発達すること。また，思春期においては，自己の認識が深まり，自己形成がなされること。  （エ）精神と身体は，相互に影響を与え，関わっていること。欲求やストレスは，心身に影響を与えることがあること。また，心の健康を保つには，欲求やストレスに適切に対処する必要があること。 | イ 心身の機能の発達と心の健康について，課題を発見し，その解決に向けて思考し判断するとともに，それらを表現すること。 | ※内容には，学びに向かう力，人間性等について示されていないことから，保健分野の目標(3)を参考にする。 |

**◆内容のまとまりごとの評価規準例**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| ・身体には，多くの器官が発育し，それに伴い，様々な機能が発達する時期があること。また，発育・発達の時期やその程度には，個人差があることを理解している。  ・思春期には，内分泌の働きによって生殖に関わる機能が成熟すること。また，成熟に伴う変化に対応した適切な行動が必要となることを理解している。  ・知的機能，情意機能，社会性などの精神機能は，生活経験などの影響を受けて発達すること。また，思春期においては，自己の認識が深まり，自己形成がなされることを理解している。  ・精神と身体は，相互に影響を与え，関わっていること。欲求やストレスは，心身に影響を与えることがあること。また，心の健康を保つには，欲求やストレスに適切に対処する必要があることを理解しているとともに，それらに対処する技能を身に付けている。 | ・心身の機能の発達と心の健康について，課題を発見し，その解決に向けて思考し判断しているとともに，それらを表現している。 | ・心身の機能の発達と心の健康についての学習に自主的に取り組もうとしている。  ※必要に応じて学年・分野別の評価の観点の趣旨（「主体的に学習に取り組む態度」に関わる部分）等を用いて作成する。 |

**◆単元の評価規準例**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| ①身体の発育・発達には，骨や筋肉，肺や心臓などの器官が急速に発育し，呼吸器系，循環器系などの機能が発達する時期があること，また，その時期や程度には，人によって違いがあることについて，理解したことを言ったり，書いたりしている。  ②思春期には，下垂体から分泌される性腺刺激ホルモンの働きにより生殖器の発育とともに生殖機能が発達し，男子では射精，女子では月経が見られ，妊娠が可能となることについて，理解したことを言ったり，書いたりしている。また，身体的な成熟に伴う性的な発達に対応し，個人差はあるものの，性衝動が生じたり，異性への関心などが高まったりすることなどから，異性の尊重，性情報への対処など性に関する適切な態度や行動の選択が必要となることについて，理解したことを言ったり，書いたりしている。  ③心は，知的機能，情意機能，社会性等の精神機能の総体として捉えられ，それらは生活経験や学習などの影響を受けながら，脳の発達とともに発達することについて，理解したことを言ったり，書いたりしている。  ④自己形成については，思春期になると，自己を客観的に見つめたり，他人の立場や考え方を理解できるようになったりするとともに，物の考え方や興味・関心を広げ，次第に自己を認識し自分なりの価値観をもてるようになるなど自己の形成がなされることについて，理解したことを言ったり，書いたりしている。  ⑤精神と身体には，密接な関係があり，互いに様々な影響を与え合っていることについて，理解したことを言ったり，書いたりしている。また，心の状態が体にあらわれたり，体の状態が心にあらわれたりするのは，神経などの働きによることについて，理解したことを言ったり，書いたりしている。  ⑥心の健康を保つには，適切な生活習慣を身に付けるとともに，欲求やストレスに適切に対処することが必要であることについて，理解したことを言ったり，書いたりしている。欲求には，生理的な欲求と心理的，社会的な欲求があること，また，精神的な安定を図るには，日常生活に充実感をもてたり，欲求の実現に向けて取り組んだり，欲求が満たされないときに自分や周囲の状況からよりよい方法を見付けたりすることなどについて，理解したことを言ったり，書いたりしている。  ⑦ストレスへの対処にはストレスの原因となる事柄に対処すること，ストレスの原因についての受け止め方を見直すこと，友達や家族，教員，医師などの専門家などに話を聞いてもらったり，相談したりすること，コミュニケーションの方法を身に付けること，規則正しい生活をすることなどいろいろな方法があり，それらの中からストレスの原因，自分や周囲の状況に応じた対処の仕方を選ぶことが大切であることについて，理解したことを言ったり，書いたりしている。  ⑧リラクセーションの方法等を理解して，ストレスによる心身の負担を軽くするような対処の方法ができる。 | ①心身の機能の発達と心の健康における事柄や情報などについて，保健に関わる原則や概念を基に整理したり，個人生活と関連付けたりして，自他の課題を発見している。  ②心身の機能の発達について，習得した知識を自他の生活に適用したり，課題解決に役立てたりして，発達の状況に応じた健康を保持増進する方法を見いだしている。  ③欲求やストレスとその対処について，習得した知識や技能を自他の生活と比較したり，活用したりして，心身の健康を保持増進する方法やストレスへの適切な対処の方法を選択している。  ④心身の機能の発達と心の健康について，課題の解決方法とそれを選択した理由などを，他者と話し合ったり，ノートなどに記述したりして，筋道を立てて伝え合っている。 | ①心身の機能の発達と心の健康について，課題の解決に向けた学習に自主的に取り組もうとしている。 |

**（３）傷害の防止　　　第２学年**

**◆学習指導要領　２　内容**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 傷害の防止について，課題を発見し，その解決を目指した活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。 | | |
| 知識及び技能 | 思考力，判断力，表現力等 | 学びに向かう力，人間性等 |
| ア　傷害の防止について理解を深めるとともに，応急手当をすること。  （ア）交通事故や自然災害などによる傷害は，人的要因や環境要因などが関わって発生すること。  （イ）交通事故などによる傷害の多くは，安全な行動，環境の改善によって防止できること。  （ウ）自然災害による傷害は，災害発生時だけでなく，二次災害によっても生じること。また，自然災害による傷害の多くは，災害に備えておくこと，安全に避難することによって防止できること。  （エ）応急手当を適切に行うことによって，傷害の悪化を防止することができること。また，心肺蘇生法などを行うこと。 | イ　傷害の防止について，危険の予測やその回避の方法を考え，それらを表現すること。 | ※内容には，学びに向かう力，人間性等について示されていないことから，保健分野の目標(3)を参考にする。 |

**◆内容のまとまりごとの評価規準例**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| ・交通事故や自然災害などによる傷害は，人的要因や環境要因などが関わって発生することを理解している。  ・交通事故などによる傷害の多くは，安全な行動，環境の改善によって防止できることを理解している。  ・自然災害による傷害は，災害発生時だけでなく，二次災害によっても生じること。また，自然災害による傷害の多くは，災害に備えておくこと，安全に避難することによって防止できることを理解している。  ・応急手当を適切に行うことによって，傷害の悪化を防止することができることを理解しているとともに，心肺蘇生法などの技能を身に付けている。 | ・傷害の防止について，危険の予測やその回避の方法を考えているとともに，それらを表現している。 | ・傷害の防止についての学習に自主的に取り組もうとしている。  ※必要に応じて学年・分野別の評価の観点の趣旨（「主体的に学習に取り組む態度」に関わる部分）等を用いて作成する。 |

**◆単元の評価規準例**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| ①交通事故や自然災害などによる傷害は，人的要因，環境要因及びそれらの相互の関わりによって発生すること，人的要因としては，人間の心身の状態や行動の仕方について，環境要因としては，生活環境における施設・設備の状態や気象条件などについて，理解したことを言ったり，書いたりしている。  ②交通事故などによる傷害を防止するためには，人的要因や環境要因に関わる危険を予測し，それぞれの要因に対して適切な対策を行うことが必要であり，人的要因に対しては，心身の状態や周囲の状況を把握し，判断して，安全に行動すること，環境要因に対しては，交通環境などの整備，改善をすることがあることや，交通事故を防止するためには，自転車や自動車の特性を知り，交通法規を守り，周囲の状況に応じ，安全に行動することが必要であることについて，理解したことを言ったり，書いたりしている。  ③自然災害による傷害は，例えば，地震が発生した場合に家屋の倒壊などによる危険が原因となって生じることや，地震に伴って発生する津波などの二次災害によっても生じることについて，理解したことを言ったり，書いたりしている。また，自然災害による傷害の防止には，自他の安全を確保するために冷静かつ迅速に行動する必要があることについて，理解したことを言ったり，書いたりしている。  ④傷害が発生した際に，迅速かつ適切な手当は傷害の悪化を防止できることや，応急手当には止血や患部の保護や固定があり，その方法について，理解したことを言ったり書いたりしているとともに，実習を通して包帯法や止血法としての直接圧迫法ができる。  ⑤心肺停止に陥った人に遭遇したときの応急手当には，気道確保，人工呼吸，胸骨圧迫，AED 使用などの心肺蘇生法があり，その方法について，理解したことを言ったり書いたりしているとともに，実習を通して胸骨圧迫，AED 使用などの心肺蘇生法ができる。 | ①傷害の防止における事柄や情報などについて，保健に関わる原則や概念を基に整理したり，個人生活と関連付けたりして，自他の課題を発見している。  ②交通事故，自然災害などによる傷害の防止について，習得した知識を自他の生活に適用したり，課題解決に役立てたりして，傷害を引き起こす様々な危険を予測し，回避する方法を選択している。  ③傷害に応じた適切な応急手当について，習得した知識や技能を傷害の状態に合わせて活用して，傷害の悪化を防止する方法を見いだしている。  ④傷害の防止について，自他の危険の予測や回避の方法と，それを選択した理由などを，他者と話し合ったり，ノートなどに記述したりして，筋道を立てて伝え合っている。 | ①傷害の防止について，課題の解決に向けた学習に自主的に取り組もうとしている。 |

**（４）健康と環境　　　第３学年**

**◆学習指導要領　２　内容**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 健康と環境について，課題を発見し，その解決を目指した活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。 | | |
| 知識及び技能 | 思考力，判断力，表現力等 | 学びに向かう力，人間性等 |
| ア　健康と環境について理解を深めること。  （ア）身体には，環境に対してある程度まで適応能力があること。身体の適応能力を超えた環境は，健康に影響を及ぼすことがあること。また，快適で能率のよい生活を送るための温度，湿度や明るさには一定の範囲があること。  （イ）飲料水や空気は，健康と密接な関わりがあること。また，飲料水や空気を衛生的に保つには，基準に適合するよう管理する必要があること。  （ウ）人間の生活によって生じた廃棄物は，環境の保全に十分配慮し，環境を汚染しないように衛生的に処理する必要があること。 | イ　健康と環境に関する情報から課題を発見し，その解決に向けて思考し判断するとともに，それらを表現すること。 | ※内容には，学びに向かう力，人間性等について示されていないことから，保健分野の目標(3)を参考にする。 |

**◆内容のまとまりごとの評価規準例**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| ・身体には，環境に対してある程度まで適応能力があること。身体の適応能力を超えた環境は，健康に影響を及ぼすことがあること。また，快適で能率のよい生活を送るための温度，湿度や明るさには一定の範囲があることを理解している。  ・飲料水や空気は，健康と密接な関わりがあること。また，飲料水や空気を衛生的に保つには，基準に適合するよう管理する必要があることを理解している。  ・人間の生活によって生じた廃棄物は，環境の保全に十分配慮し，環境を汚染しないように衛生的に処理する必要があることを理解している。 | ・健康と環境に関する情報から課題を発見し，その解決に向けて思考し判断しているとともに，それらを表現している。 | ・健康と環境についての学習に自主的に取り組もうとしている。  ※必要に応じて学年・分野別の評価の観点の趣旨（「主体的に学習に取り組む態度」に関わる部分）等を用いて作成する。 |

**◆単元の評価規準例**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| ①身体には，環境の変化に対応した調節機能があり，一定の範囲内で環境の変化に適応する能力があること，また，体温を一定に保つ身体の適応能力には限界があること，その限界を超えると健康に重大な影響が見られることから，気象情報の適切な利用が有効であることについて，理解したことを言ったり，書いたりしている。  ②温度，湿度，気流の温熱条件には，人間が活動しやすい至適範囲があること，温熱条件の至適範囲は，体温を容易に一定に保つことができる範囲であること，明るさについては，視作業を行う際には，物がよく見え，目が疲労しにくい至適範囲があること，その範囲は，学習や作業などの種類により異なることについて，理解したことを言ったり，書いたりしている。  ③水は，人間の生命の維持や健康な生活と密接な関わりがあり重要な役割を果たしていること，飲料水の水質については一定の基準が設けられており，水道施設を設けて衛生的な水を確保していること，飲料水としての適否は科学的な方法によって検査し，管理されていることについて，理解したことを言ったり，書いたりしている。  ④室内の二酸化炭素は，人体の呼吸作用や物質の燃焼により増加すること，そのため，室内の空気が汚れてきているという指標となること，定期的な換気は室内の二酸化炭素の濃度を衛生的に管理できること，空気中の一酸化炭素は，主に物質の不完全燃焼によって発生し，吸入すると一酸化炭素中毒を容易に起こし，人体に有害であることについて，理解したことを言ったり，書いたりしている。  ⑤人間の生活に伴って生じたし尿やごみなどの廃棄物はその種類に即して自然環境を汚染しないように衛生的に処理されなければならないことについて，理解したことを言ったり，書いたりしている。 | ①健康と環境に関わる原則や概念を基に，収集した情報を整理したり，習得した知識を個人生活と関連付けたりして，自他の課題を発見している。  ②身体の環境に対する適応能力・至適範囲について，習得した知識を自他の生活に適用したり，課題解決に役立てたりして，熱中症などになるリスクを軽減し，健康を保持増進する方法を見いだしている。  ③飲料水や空気の衛生的管理や廃棄物の衛生的管理について，習得した知識と自他を取り巻く環境とを関連付けたり，整理したりして，疾病等にかかるリスクを軽減し健康を保持増進する方法を選択している。  ④健康と環境について，課題の解決方法とそれを選択した理由などを，他者と話し合ったり，ノートなどに記述したりして，筋道を立てて伝え合っている。 | ①健康と環境について，課題の解決に向けた学習に自主的に取り組もうとしている。 |